

2015 年度

共通科目委員会 語学部会

自己点検・評価報告書

第3章 教育活動と教育体制の整備

芝浦工業大学では、グローバル化した社会から学びグローバル化した社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下のように3つのポリシーを述べている（根拠資料：大学ホームページ）。すなわち、アドミッションポリシーでは、「我が国と世界の持続的発展に貢献」しようという意志をもち、「人類の進歩と地球安全の保全に尽くす」気概をもつ学生の入学を求めている。カリキュラムポリシーでは「世界と社会の中で自律的・主体的に活躍し、世界に貢献できる技術者を育て」ることを教育の目標とする技術者像としている。さらに、ディプロマポリシーでは「世界の諸問題を解決できる」能力を得たものに学位を授与するとしている。これらのポリシーにしたがって世界に貢献することができるためには、世界のさまざまな国の人々とコミュニケーションできる能力を備えていなくてはならない。システム理工学部語学部会では、世界の共通言語としての英語を中心として、英語圏以外の多様な国の人々とのコミュニケーションツールとしての第二外国語の教育を行っている。

システム理工学部のイングリッシュ・コースはすべてコンテンツ・ベースドであり、言語を習得することによって、日本だけでなく、世界におけるさまざまな社会問題を学生が自身の問題として捉え、多様な考え方を身につけることができる。コンテンツ・ベースドの英語教育とは、教育理念を効果的に伝えるための教育メソッドである。英語に関しては、リスニング、ライティング、スピーキング、リーディングというすべてのスキルがばらばらではなく統一して教授され、授業を通じて、学生が英語能力に自信が持てるようになっている。こうした教育方法は、ホリスティック・アプローチとよばれる。学生は英語圏で実際に使用されている「本当」の英語教材を通じて学び、そうした教材は社会性があり、大学生にとって理解できるレベルの教材を想定している。学生は知的刺激に満ち、内容の豊かな学習環境で英語能力を獲得できる。コンテンツ・ベースド・コースは、このように英語学習者用のテキスト学習、英訳練習、日常会話練習、読解テスト、といった文法中心の英語教育とは趣を異にしている。

第二外国語・コースは、1年次では語学の基礎を学び、2年次では1年次で学んだ語学のさらなる発展ならびに、各言語の文化背景を学ぶ内容となっている。

英語教育はディスカッションを中心として展開していることから、少人数教育が望ましいため、学生数25人以下で行うよう実施している。2008年、2009年の学部学科増設に伴い、適切に小人数教育が実施できるよう、非常勤講師数を増やした。

第二外国語に関しても、かねてから学生より要望のあったスペイン語、フランス語を2008年に新設し、受講者の多い中国語の授業数を増やした。大学のグローバル人材育成プログラムの展開により、留学生数が多くなり、大学の要請を受けて、日本語の授業も新設し、今年度はさらに増設した。第二外国語のクラスに関しては、授業内容が、コミュニケーションというよりも、文法学習が中心なので、1クラス30人以下で学生の受け入れを実施している。

具体的なカリキュラムは以下の通りである。（根拠資料：「学修の手引」、大学ホームページのシラバス）

●英語カリキュラム

- ・1年次 **English Critical Thinking I**（前期2単位）

English Critical Thinking II (後期 2 単位)

・ 2 年次 **English Social Issues I** (前期 2 単位)

English Social Issues II (後期 2 単位)

English Critical Media Studies I (前期 2 単位)

・ 3 年次 **English Critical Media Studies II** (前期・2 単位)

English Analysis of New Social Movement (後期 2 単位)

* 上記に加え、学外英語検定 I・II (通年・各 2 単位) がある。

* 学生は卒業までに英語科目を 8 単位 (選択) を取得することが卒業要件である。

● 第二外国語カリキュラム

・ 1 年次 中国語 I・II、韓国 (朝鮮) 語 I・II、スペイン語 I・II、

ドイツ語 I・II、フランス語 I・II、日本語 I・II・III

* 学生は卒業までに第二外国語科目を 2 単位 (選択) を取得することが、卒業要件である。

システム理工学部の卒業要件を満たすには、学生は英語単位を少なくとも 8 単位取得する必要がある。学生は、システム理工学部ならびに他学部の英語科目から履修科目を自由に選択できる (注: 他学部の英語授業は履修者数等の都合により履修が認められない場合がある)。1 年次前期のみ、履修クラスは事前に決定され、Web システム「S*gsot」で通知される。こうした手順に関しては、入学時のガイダンスにおいて学生に周知している。1 年次後期以降は、事前履修登録において、履修したいクラスの希望を登録することができる。授業開始までには、配属クラスが発表されるので学生には各自、確認するよう周知している。

語学の専任教員は従来 2 名であった。以下で述べる 2015 年度から始まる理工系に特化した語学プログラムの展開に備え、1 名の専任教員 (教授) が 2014 年 4 月に、また、1 名の特任教員 (特任准教授) が 10 月に加わり、英語担当の教員は合計で 4 名となった。語学部会のメンバーは、専任教員 3 名に専門科目の教員を 1 名加えた 4 名である。英語カリキュラムの非常勤講師は 15 名おり、英語圏出身の教員だけでなく、ハンガリー、フィンランド、日本出身のバイリンガルの教員がおり多様な人材が揃っている。教員の教育背景は社会学、文化人類学、女性学、哲学、歴史等多彩であり、学生の多文化意識・クリティカル・シンキング向上の目的には適した人材が揃っている。第二外国語担当非常勤講師は 7 名おり、教える言語のネイティブか、ネイティブに近い日本人講師を配している。

コンテンツ・ベースド・ラーニングを本学部では採用しており、この語学学習法は一般的には評価が高い。また、社会問題を中心としたクリティカル・シンキングは、社会で貢献する学生を育成するという本学の目的と合致するものである。第二外国語に関しては、卒業要件単位が 2 単位にあるにもかかわらず、2 単位以上履修する学生もいる。語学力の向上に関しても、学生から「ディスカッションを通じて、英語で話す自身がついてきた」、「第二外国語をネイティブに使ってみたら通じて嬉しかった」、といった肯定的な意見が授業評価アンケートから伺える。

しかしその一方、就職や大学院進学時、進学後に役立つような理工系人材育成に適した語学カリキュラムへの期待が強くなっている。あるいは、就職活動時及び大学院進学時等、

TOEIC スコアの提出を要求される場面が増えているため、実用的な英語能力カリキュラムの必要性も学生から聞かれるようになってきている。確かに、学年が上がっても TOEIC のスコアは入学時から変わっていないので、現在の英語カリキュラムは少なくとも TOEIC のスコアアップにはつながっていないと考えられる。

こうした背景から、2012 年 1 月に学部長より語学カリキュラムの強化の要請が出され、「語学教育に関する将来像検討委員会」（以降、「検討委員会」と表記する）が語学部会教員を含む、本学部全学科から選ばれた 5 名の教員、計 8 名の構成により発足した。検討委員会の話し合いにおいては、例えば、学部生向け英語による理工系専門科目授業の展開、大学院進学予定の 4 年生への英語授業の提供、TOEIC テストの受験の制度化等を通じ、本学部学生の語学力が向上するよう、さらなる語学教育の強化・拡充することが検討された。最終的には、2015 年度からの英語のカリキュラムの実施に関して、「国際感覚を持ったエンジニアに相応しい実践的な英語の 4 技能（読む、聴く話す書）向上」を方針とする新カリキュラムを 2014 年 4 月に答申した（根拠資料 1）。答申は 4 月のシステム理工学部教授会に報告された。

検討委員会からの答申を受け、その方針を具体化する作業を学部長、語学部会委員を含む教員、職員からなる英語カリキュラム改革全体会議にて行った。2015 年度からの新カリキュラムの特徴は以下の通りである。1) 基礎的な一般英語の学習から始まり、理工系の実践的な英語に進む道筋を明確にする。そのために、1 年次と 2 年次の英語の授業を一新する。2) レメディアルクラスを新設し、英語の基礎力が不足している学生の英語力の底上げを計る。3) 3 年次には理工系のプレゼンテーションや、語学検定への対策授業を新設し、卒業後に必要とされるスキルや資格を獲得できるようにする。4) レベル別クラス編成とし、学生の英語レベルにあった学習ができるようにする。5) e-learning を 1, 2 年次の授業で全面的に取り入れ、自宅学習時間を確保する。6) 海外語学研修に参加することにより単位が取得できるような授業を新設し、海外英語研修への参加を促す。7) 4 年次に進級時の目標とする TOEIC スコアを設定し、学習目標を具体化させる。8) 英語学習サポート室を新設し、英語の疑問や悩みを相談できるようにする。（根拠資料 2）

非常勤講師に関しては、2015 年度からの英語新カリキュラムへの移行に伴い、従来の授業がすべて廃止され、新しい授業が始まるため、英語非常勤講師の新規公募を行った。その結果、非常勤講師と特任教員をあわせて 10 名の採用を決定した。一方、英語非常勤講師によるストライキが行われたが、適宜、専任教員等による代講が行われ、授業の質と量を確保した。新カリキュラムの担当者に対しては、3 月に新カリキュラムの授業のワークショップを行った。

以上のように、世界に貢献できる技術者として必要な実践的な外国語語学力を学生が修得できているか、という観点から語学教育の現状を評価すると、さらに改善できる余地がある状況にある。2014 年度では、理工系人材に必要な実践的な英語教育のためには具体的には何をすべきかを検討し、計画を立て、準備をした。英語新カリキュラムは 2015 年度にスタートする予定である。